



混雑、品薄…心碎く

コロナ禍を歩く

ルポ おおいた



自宅で過ごす人が増え、外食の機会もめっきり減った。スーパーの棚は空きが目立つようになった＝臼杵市のマルミヤストア野田店、撮影・鎌手美和

自炊増え客足伸びたスーパー

住民らから感謝の声も

ニンジンにゴボウ、豚の細切れ。買い物かごの中に品物が積み重なっていく。午前10時すぎ。臼杵市野田のマルミヤストア野田店は、近々の住民たちで活気づいていた。

店内を回って回っていた玉葉俊店長46は急を腰にかがめた。バスターコーナの乾麺やソースが品切れのようだ。陳列棚には所々、空きがある。「常に商品を並べておきたいんですが」。申し訳なさそうに言った。

生鮮品や惣菜順調
新型コロナウイルスの感染拡大で自粛ムードが続く。不要不急の外出を控えた各家庭の多くは自炊中心の生活になった。

暮らして欠かせないスーパーでは肉、魚、野菜などの生鮮食品や惣菜が順調に売れる。調理が簡単で保存の利くレトルト食品や、自宅で過ごす休日のお供となるスナック菓子も人気を集めている。

全国の業界3団体が、加盟するスーパー270社・8018店舗に聞いた3月の売上高（速報値）は計約9633億7千万円。前年同月の約8849億7千万円から1割ほど伸びた。一方で「品薄や欠品、混

雑などへのクレームに悩まされる店も多い」と日本スーパーマーケット協会の担当者は語る。

3月に店頭からトイレ紙がなくなったのは記憶に新しい。今はハンドソープなどの衛生商品、カップ麺、小麦粉といった一部食品の入荷が滞りがちになっている。

3密と隣り合わせ
にきわまるスーパーは、いわゆる「3密」と隣り合わせだ。感染を広げないための責任も背負う。

大分市賀来西のマックスバリュ賀来店は、県内の小中高校で休校措置が始まった3月以降、来店客数が1割近く増加。緊急事態宣言が全国に広がった後も伸びた。

レジには飛沫を防ぐ透明のスクリーンが設置されている。食品スーパーの業界団体や農林水産省は、買い物について「マスクを着用し、少人数で来店し滞在時間を短くする。混雑を避け、不要な問い合わせや買いためはしない」と呼びかけている。県は密閉・密集・密接の「3密」を避けるため、買い物回数を減らすよう促している。

ビニールを取り付け、会計待ちの客同士が近づきすぎないよう床に2層間隔の線を引いた。それでも行列ができる心配になる。国は接触機会の8割減を訴え、「入場制限をしないのか」といった苦情を受けることもある。

「混雑しない時間帯の来店をお願いしたいが、どうすればいいか」。大塚和成店長(59)は悩む。さりげない一声に「昼時が近づいた。マルミヤストア野田店のレジ前が混み始める。」

最近、店員たちは去り際に「ありがとう」と声を掛けられることが増えた。地域住民らのさりげない気配りと心遣いは、店頭に立つ日々の大きな支えになっている。

客足は絶えない。それでも「なじみのお客さんとの会話は減ったように感じますね」。レジ係のバート陶山口登美さん(49)はビニール越しにおつりを差し出した。(大塩信)

※ 随時掲載

2020年5月4日付大分合同新聞 21面

新型コロナウイルスの感染拡大で、不要不急の外出を控えた各家庭の多くは自炊中心の生活になりました。客足が伸びたスーパーでは、混雑や品薄・欠品などに心を砕いています。

①スーパーの3月売上高は、前年同月に比べて約何割伸びましたか？

.....

②現在、入荷が滞りがちになっている商品は？

.....
.....
.....
.....
.....

③店頭立つスーパーの店員にとって、日々の大きな支えになっていることは？

.....

④「3密」とは何ですか？ 「3密」を避けるために、あなたの周りで取り組んでことを挙げてください。

.....
.....
.....